

2016脱原発1日セミナー

いのちを育み、暮らし続けられる 社会をめざして

チェルノブイリ原発事故から30年を経ても廃炉の終わりが見えない。日本では、東日本大震災と東電福島第1原発事故から5年。復興道半ばで原発再稼働に動き出すなか、熊本地震が起きた。なぜ日本は逆戻りをしているのか。子ども被災者支援法は機能しているのか。福島の避難者の声を聞き、地震列島の暮らしといのちを守るため、私たちは今後どうすべきか。共に学び、持続可能な社会をめざしたい。

と き **8月5日(金)** 9:45~16:30 (開場 9:15)

ところ 婦選会館 東京都渋谷区代々木 2-21-11 ☎03-3370-0238
JR線/代々木駅北口、新宿駅南口下車徒歩約7分 道順はセンターHP参照
小田急線/南新宿駅下車徒歩約3分 地下鉄都営新宿線・大江戸線/新宿駅A1下車徒歩約3分

対象・定員 自治体議員及びその支援者、
テーマに関心のある人(主に女性)約40名(受付先着順)

プログラム (9:45~10:00 開会行事・ガイダンス)

10:00~12:00

●基調講演 3.11 から 5年 —なぜ日本は逆戻りをしているのか—

元京都大学原子炉実験所助教 **小出裕章氏**



撮影 松岡広樹

13:00~16:30

●シンポジウム 避難か帰還か、原発事故避難者の現実と課題

パネリスト

福島原発被害者東京訴訟原告 **熊本美彌子氏**

原発避難者 **古川好子氏**

郡山市議会議員 **へびいし郁子氏**

=進行兼= 原子力資料情報室スタッフ **澤井正子氏**

16:30~18:00

●交流会(自由参加)

参加費 12,000円(現職議員以外の方は半額)。交流会参加費は別途1,000円(ドリンク・軽食)

備考 ■参加希望者は8/1(月)までに①参加費のお申込み、②裏面申込書などでお申し込み下さい。
■振込先 郵便振替口座番号 00170-0-561022 加入者名(公財)市川房枝記念会女性と政治センター
■講師紹介・申込用紙は裏面にあります。■講師の都合等により変更がある場合はご了承下さい。

主催：公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター

東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館 〒151-0053

電話 03-3370-0238 FAX 03-5388-4633

E-mail fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp URL www.ichikawa-fusae.or.jp

(2016.6)

2016 脱原発 1 日セミナー

講師プロフィール



小出裕章 (こいで ひろあき) 氏

1949 年東京生まれ。東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修了。74 年京都大学原子炉実験所助教。2015 年 3 月定年退職。専門は放射線計測、原子力安全。伊方原発訴訟住民側証人。著書に『放射能汚染の現実を超えて』（北斗出版 1992/再刊：河出書房新社 2011）、『隠される原子力＝核の真実』（創史社 2010）、『原発のウソ』（扶桑社 2011）、『ぜんぶなくす、原発ゼロ世界へ』（エイシヤ出版 2012）、『原発と憲法 9 条』（遊絲社 2012）、『日本のエネルギー、これからどうすればいいの？』（平凡社 2012）、『100 年後の人々へ』（集英社新書 2014）、『原発と戦争を押し進める愚かな国、日本』（毎日新聞出版 2015）など。



熊本美彌子 (くまもと みやこ) 氏

60 歳まで都内で働き、田舎暮らしをしようと移住した福島で原発事故にあい、避難者となる。現在東京電力と国に賠償を求め裁判中。



澤井正子 (さわい まさこ) 氏

東京生まれ。中央大学経済学部卒業の私立文系女子。1986 年のチェルノブイリ原発事故を契機とした「反原発出前のお店」の運動に参加し、脱原発への歩みをはじめ。1992 年から原子力資料情報室スタッフとなり、再処理・廃棄物問題を担当。『検証－東電原発トラブル隠し』（共著、岩波ブックレット 2002）、『100,000 年後の安全』（解説、かんき出版 2011）他。娘と時々バトルのパートタイマー主婦。



古川好子 (ふるかわ よしこ) 氏

1963 年生まれ。父の転勤により 1970 年代に富岡町へ。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により被災し、現在も会津若松市へ避難中。家族離散の状態での避難のため、600km を越える移動を月に何度もこなしながら家族を繋げている。夫、子ども 3 人、父の 6 人家族。



へびいし郁子 (へびいし いくこ) 氏

2005 年 4 月より福島県郡山市議（4 期目）。毎議会報告紙を発行し報告会を開催。議会日当の廃止、政務活動費の領収書添付義務を実現。議会基本条例、ひとり親家庭・DV 被害者支援、生活保護円滑化、非正規職員・委託労働者・学校司書等の待遇改善、公契約条例制定等に取り組む。2011 年 3 月福島原発爆発事故後は、放射能から命と暮らし・子どもたちを守る活動、線量測定と公開、被ばく防護策提言、被災者支援と東電等の責任追及を進める。

参加申込書

ふりがな お名前			
連絡先	住所	(〒)	
	電話	FAX	
	メール		
受講歴	はじめて参加 ・ 前に参加したことがある		
現職議員	自治体名		
	所属会派	党籍 有() ・ 無	
議員以外	活動など()		
参加費	郵便振替 ・ その他()		
払込方法	払込金額	参加費(12,000 円/6,000 円) + 交流会参加費(1,000 円) = 円 * 参加費: 現職議員以外は 6,000 円	
参加の きっかけ	議会事務局より ・ 当センターからの案内 ・ 『女性展望』誌上 ・ 当センターHP その他()		

FAX 03 - 5388 - 4633